

少子化時代を生きる 庄原市の子育ては今……

全国的な課題である少子化の波は、庄原市にもさまざまな影響を及ぼし、出産・子育てなどの環境に変化が出ています。
多様化するニーズに対応する少子化対策が望まれる中、出産や子育てをする保護者の皆さんの声や、地域・サークルでの特色ある子育て支援などを取材し、これからの子育てについて考えていきます。



第1章 Chapter One 身近に「安心して産める」環境を



つる不安
「これからの季節、積雪や凍結の中を三次まで行かなければならないのは、大変不安です。急に産気づいたときも、時間がかかるし……。来年1月に出産を控えたある妊婦は、身近に出産の場がないことへの

不安をこう明かしました。「緊急時や出産後の定期検診など、身近に頼れる場所がないのは不安です。東城から三次へ高速道路を使って通っている知り合いの妊婦もいますが、かなりの時間がかかり、負担になっているのでは」。安心して子育てをする前提として、安心して産むことができる環境は当然必要であり、不安を抱く人も少なくありません。

不安解消に向けた取り組み

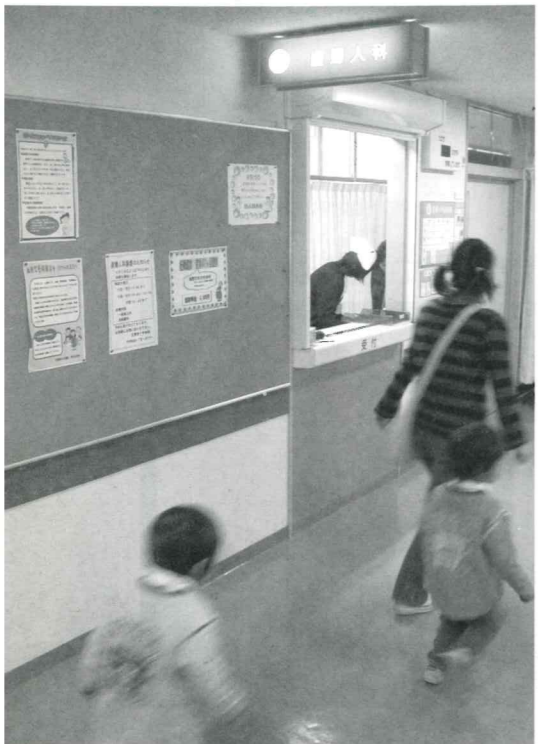
備北地域の中核医療機関である庄原赤十字病院に、なんとしても常勤の産婦人科医を市では、後任の医師確保に向けて、広島大学への医師派遣依頼、あるいは日本赤十字社広島県支部長である広島県知事への要望など、状況を打開するために活動を続けてきました。

また庄原赤十字病院でも、医師確保の取り組みを進める一方で、産婦人科医による健診を週2回実施したり、三次中央病院との連携により緊急時の出産に対応できる体制を整備するなど、不安を解消するための取り組みを進めています。

医師確保に向けた取り組みは現在も継続して行っていますが、具体的なことは現在分かっています。しかし、安心して子どもを産み育て、暮らしていくためのまちづくりを実現するためにも、市では全力を挙げて取り組みを進め、広報紙などを通じて市民の皆さんへ随時報告をしていきます。



庄原赤十字病院の産婦人科窓口。毎週火曜日には広島大学から医師が、また木曜日には前副院長が訪れ、健診を行っています。



庄原赤十字病院での対応

産婦人科診療

4月12日から、一般婦人科・妊婦健診を実施しています。

- 開催日時 毎週火曜日
- 受付 9時～11時、13時～14時
- 診察終了 15時

※予約も受け付けています。
※毎週木曜日には、健診を実施しています。

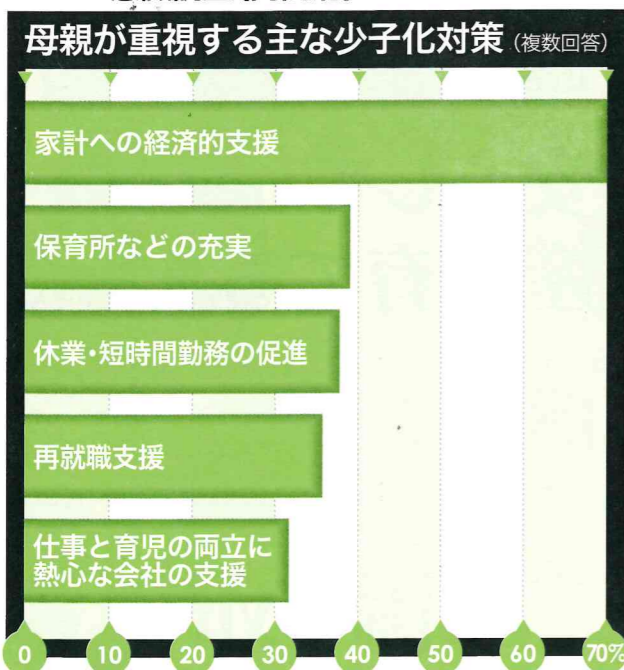
緊急時の対応

助産師が、24時間電話対応できるような体制を整備しています。診察日以外でも気軽にお問い合わせください。

また緊急時には、市立三次中央病院の医師へ報告し、受診できるようになっています。

- 問い合わせ
庄原赤十字病院 ☎0824-72-3111

表3 少子化社会対策に関する子育て女性の意識調査(内閣府)



全国的な課題である少子化に対する政策立案の資料とするため、内閣府では、「少子化社会対策に関する子育て女性の意識調査」を実施し、10月8日に結果が公表されました。

この調査の中で、少子化対策として重要と考えるものを聞いた項目では、多くの母親が「経済的支援の必要性」や「保育所など子どもを預かる環境の充実」、「出産・育児

期待されている対策とは

のための休業・短時間勤務」を挙げています(表3)。

市でも、子育て家庭を人的・経済的に支えるさまざまな取り組みを実施していますが、地域や団体などでも、子育て環境の充実を目指す取り組みが進められています。

次章では、この3つの項目に着目し、どのような取り組みが実施されているのかご紹介します。

庄原のお母さんの声

「ここが不安」「もっとこんな工夫を」



道下 京さん(口和町)

2年前に広島市安佐南区から嫁いできて、今は3世代が同居する大家族で楽しく暮らしています。来年の4月には出産予定ですが、初めてなので保健師さんや親と相談しながら臨みたいと思います。

以前住んでいた広島市では、共働きでなければ保育所に入所できませんでしたが、庄原市には、出産祝い金や未満児保育、乳幼児医療の助成などの支援があり、大変心強いです。

ただ広島市では、保育所に行かない子どもとその親が自然と公園に集って、話や相談をしたりしていましたが、こちらでは日中周りに子どもがいないので、子どもや親がふれあえる場所があればいいですね。



黒木美穂さん(総領町)

子育てはとても楽しいですね。でもその中では、不安を感じることもあります。私も特に初めてのときは、周りの人にいろいろ聞きながら、本当に大丈夫だろうかと心配したことを覚えています。

出産や子育てが負担にならないように、日ごろから気軽に立ち寄って話をし、リフレッシュできるような場所と機会がもっとあればいいと思います。

私の場合は、たまに同年代の子どもがいるお母さんの家へ話しに行ったりします。同じ状況にある人と話をすることで、初めて分かることや、うちの子だけじゃないんだと安心することもあります。

日本全国に少子化の波

第2章 Chapter Two

進む少子化 データから見る庄原市の状況



子育てに限らず、社会保障制度や経済成長などへも大きな影響を及ぼす少子化。日本全国で急速な進行を見せるこの少子化は、庄原市ではどのような状況になっているのでしょうか。

表1は、庄原市における、昭和55年から平成15年までの

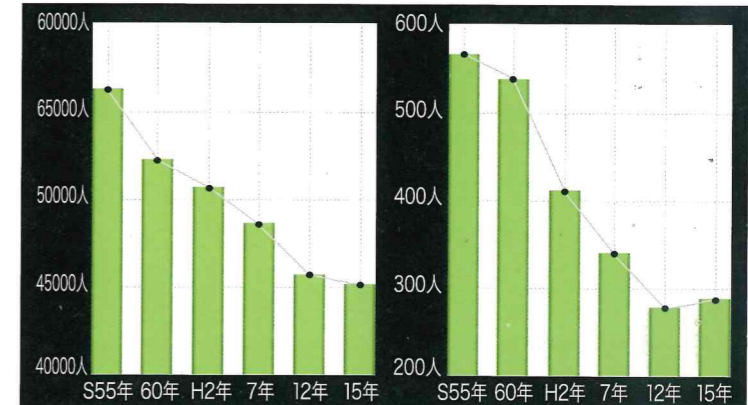
間の人口と出生数の推移を表したグラフです(数値は旧1市6町の合計)。これをみると、人口とともに出生数は減少傾向が続いており、平成15年の出生数は、昭和55年の実に半分以下になっています。

また表2は、広島県と旧1市6町の合計特殊出生率です。一人の女性が生涯に何人の子どもを産むかの推定値のことを合計特殊出生率と

いい、この値が例えば2.0だとすると、その時点で女性は平均で2.0人の子どもを産んでいるということになります。

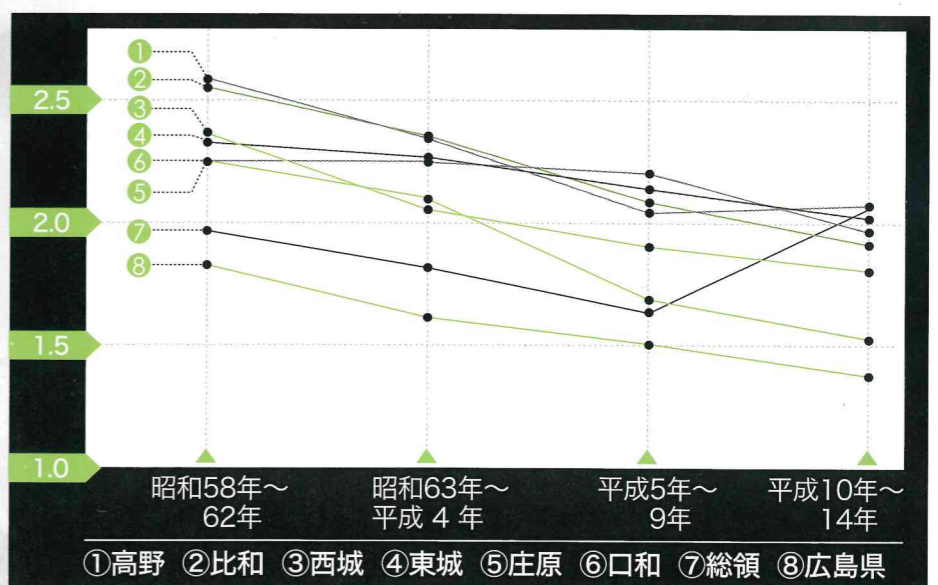
また、この合計特殊出生率が2.08を下回ると、長期的に見て人口は減少していくと言われていますが、広島県をはじめ全国ではこの値を大きく下回る状況が続いており、新市全域でも年々下降してい

表1 庄原市の人口と出生数の推移



人口:平成12年までは国勢調査、平成15年は10月1日現在の住民基本台帳登録人口
出生数:人口動態統計

表2 県・旧1市6町の合計特殊出生率の推移



厚生労働省ホームページより

第3章

Chapter Three

安心して産み育てるために

子育てを支援する“チカラ”

期待される子育て環境を実現するため、行政をはじめ地域やサークルなどによるさまざまな取り組みが、皆さんの子育てを応援しています。



1 家計を支える“チカラ”

◎出産祝い金

庄原で生まれた子どもたちの健やかな育成を支援し、その子育てる保護者の経済負担を軽減するため、今年度から交付しています。

■対象

庄原市に住所を有し、平成17年3月31日以降に誕生した子どもと同居および養育している保護者で、3年以上庄原

市に在住しようとする方

■交付額

第1子……………15万円
第2子……………20万円
第3子以降……………30万円

■申請期間

出産の日から60日以内に所定の申請書に必要事項を記入し、本庁および支所に提出してください。なお、上記期間以降の申請は無効となりますのでお気をつけください。

■問い合わせ

- 児童福祉課子育て支援係 ☎0824-73-0051
- 西城支所保健福祉課 ☎0824-82-2202
- 東城支所保健福祉課 ☎08477-2-5131
- 口和支所保健福祉課 ☎0824-87-2114
- 高野支所保健福祉課 ☎0824-86-2114
- 比和支所保健福祉課 ☎0824-85-3002
- 総領支所保健福祉課 ☎0824-88-3110

◎INTERVIEW インタビュー



森永陽子さん(口和町)

2歳と3カ月の二人の子どもがいます。小さいときは、風邪やぜんそく、目や耳、けがなどで病院にかかる機会が多く、また病気が長引いたり入院したときの費用などは気にかかりますが、庄原市には乳幼児医療費助成事業があったので心強く思います。

また、出産では色々な準備が必要でしたが、出産祝い金をいただいて助かりました。今後も、子育てにはさまざまな費用がかかるので、保育料の支援など、家計を支えてもらえる取り組みに期待しています。

●乳幼児医療費助成事業
乳幼児の健やかな育成を図るため、医療費を助成していただきます。
■対象
市内に住所を有する乳幼児(誕生から小学校就学前まで)
※乳幼児が、国民健康保険法による被保険者または社会保険各法による被扶養者であることが必要

■給付額
医療費のうち、保険診療による自己負担部分を支給します。(法令により医療の給付等が行われた場合は、その額を除く)なお、受診の際には、『乳幼児医療費受給者証』を医療機関に提出してください。
■申請受付・問い合わせ
保健医療課医療係
☎0824-73-1155

2 子育て環境の充実を支える“チカラ”

◎子育て支援センター

市内各地にある、子育て家庭をはじめ、地域の皆さんが気軽に集って交流ができる場。担当の職員が常駐していることで、子どもを遊ばせながら相談に応じることもできます。

◎ファミリーサポート

育児を応援してほしい人(依頼会員)と、育児を応援したい人(提供会員)が会員になり、相互に関わりあつて、安心して子育てをするための会員組織の相互援助活動。庄原市在住の方なら誰でも会員になれます。

■預かる対象年齢

0歳～小学校2年

※利用料金の1/3を市が負担します。

◎放課後児童クラブ

放課後に留守家庭の児童が、遊びや生活をする場。市内には9つの放課後児童クラブがあり、子どもたちは、指導員や友だちと放課後を楽しんでいると聞いています。

子どもたちが遊ぶだけでなく、お母さんどうしの交流の場にもなっている子育て支援センター(写真は庄原駅舎内のひだまり広場)

宿題も楽しくがんばってます!(総領放課後児童クラブ)



市内の子育て支援センター

	各支援センター名	電話番号
市	基幹子育て支援センター(児童福祉課子育て支援係)	0824-73-0051
庄原地域	庄原地域子育て支援センター(庄原駅舎内)	0824-75-0222
西城地域	西城子育て支援センター(西城保育所内)	0824-82-3003
東城地域	東城子育て支援センター(小奴可保育所内)	08477-5-0031
口和地域	口和子育て支援センター(保健センター内)	0824-89-7070
高野地域	高野子育て支援センター(新市保育所内)	0824-86-2256
比和地域	比和子育て支援センター(比和保育所内)	0824-85-2608
総領地域	総領子育て支援センター(健康福祉センター内)	0824-88-3110

市の取り組み

Activity

子育てサークルの

子育てを支援する“チカラ”

活動

「気軽に集まれる場所がない」、「情報交換する仲間がいない」。幼い子どもを持つ親からは、異口同音にこのような答えが返ってきます。そんな悩みを持つお母さん方が、互いに交流できる場所をつくろうと、各地で子育てサークルを立ち上げ、自ら運営しています。

スマイルトーク(西城)



みんなで楽しいひととき

「自分たちで やってみよう」

「おはよう!」、「元気だった?」、「また大きくなったね」子育て応援サークル「スマイルトーク」の集いが開かれる毎月第1・3水曜日。お母さんと子どもたちの元気な声が、「しあわせ館」の明るい館内にあふれます。

旧西城町の「親子ふれあいの集い」事業に参加した母親が、「自分たちのことなのに、

準備してもらった事業に参加するだけでいいの?」と、自主的に運営する「スマイルトーク」の設立を決めました。当時、その中心となったのが竹元明美さん。

自ら運営するという意識のもと、さまざまなアイデアを出しながら活動する中で、町の子育て支援施策にも積極的に提言。「しあわせ館」の建設にあたっては、「親子が気軽に集える場所を」という意見を出し、館内に「おひさま共和国」という部屋が設けられました。「望んだような自由に利用できる部屋ができ、

喜びと同時に、責任を持って運営しなければという自覚も生まれました」と竹元さんは振り返ります。

現在のメンバーたちも、「スマイルトーク」の運営をすることで、自分たちの力で思いを形にしていける喜びを感じることができ、子育てにプラアルファの充実感がありますね。この地域で子育てでできることが幸せ」と話します。



竹元明美さん

「また定期的に会報も発行し、子育て相談やお菓子作りなどのお役立ち情報を発信しています。支援や資金面での課題もありますが、『親子の輪』を広げるため、今後もいろいろな地域のサークルと交流していきたい」と会員の皆さんは話します。

活動の幅を広げる



渡部喜世子さん

平成13年11月には、「スマイルトーク」のメンバーと元保育士の有志などが、乳幼児の一時預かりを行う「子育てほっとサロン」をスタート。現在は、約10人が子育て応援サポーター「グランマ」として活動しています。

グランマの一人、渡部喜世子さんは、「美容院や食事に行くなど、心身のリフレッシュは子育てに大切な要素だと考え、できるだけ利用者の声に応えています。利用者からは『ゆとりを持って子育てでき、生き方に前向きになった』との声を聞きますよ」と話します。

ありんこクラブ(東城)

楽しい育児をサポート

「親も子どもも楽しい育児を」というキャッチフレーズのもと、平成9年に設立された「ありんこクラブ」。

このサークルには、現在51家族(子ども59人)が会員として参加し、その中の運営委員が企画運営を担当。さらには、「どうしよう子育て応援団」、保育所、社会福祉協議会など



の団体がサポートしています。活動内容は、毎月1回の定例会(座談会・救急講習・ストレッチ体操など)をはじめ、特別行事として、月1〜2回程度の交流会やピクニック、リング狩りなどを実施。

また、定期的に会報も発行し、子育て相談やお菓子作りなどのお役立ち情報を発信しています。支援や資金面での課題もありますが、『親子の輪』を広げるため、今後もいろいろな地域のサークルと交流していきたい」と会員の皆さんは話します。

ありんこ おすすめレシピ

サークルの皆さんで考えたオリジナルのレシピを紹介します。

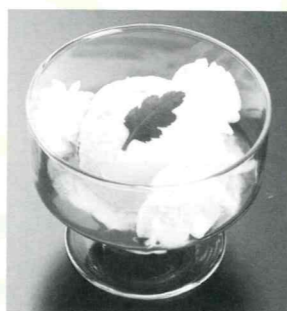
さうとうとろけるキャラメル・アイス

材 料	
砂糖(A).....120g	牛 乳.....400cc
砂糖(B).....40g	生クリーム.....200cc
熱 湯.....60cc	卵 黄.....6個
バニラエッセンス.....小さじ1	砂 糖(C).....30g

①鍋に砂糖(A)を入れ火にかけ、鍋をゆすりながら溶かして焦がし、熱湯を注いでキャラメルをつくり、わかした牛乳を加えます。

②卵黄と砂糖(B)をよく混ぜ合わせたら、①を少量ずつ加えて一度こしてから鍋に移します。そして、木べらでかき混ぜながら火を通し、ボールにあけて冷ましてからバニラエッセンスを加えます。

③生クリームに砂糖(C)を加えて泡立て、②を加えて混ぜます。途中4〜5回かき混ぜながら、冷凍庫で冷やしてでき上がり。

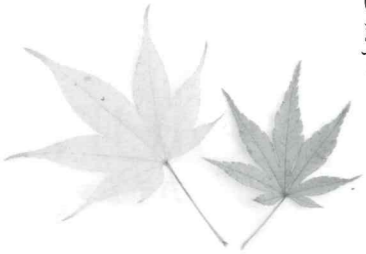


ママの集い(比和)

「井戸端会議ができる場を」との思いから、平成16年10月に設立された「ママの集い」。現在は、18家族が毎月第2木曜日に集まり、世間話から子育てに関するお互いの相談などをしながら、気分をリフレッシュする場となっています。

新しいお友だちを待ってま〜す。





働きながら子育てをしている人が多い中、職場での環境づくりなどによる子育て支援も、徐々に進められています。

子育て推進委員である住田さんの会社は、清掃用具のレンタル業務を主に行っています。従業員の多くは女性で、しかもそのほとんどが低年齢の子どもを育てながらの仕事であることから、仕事と子育てを両立しやすい環境づくりに会社全体で取り組んでいます。

3 働く環境を支える “チカラ”

◎ 職場での支援



有限会社住田 住田 則雄さん(上原町)

「支えあいの気持ちが少しでも高まればと、従業員の家族同士の交流会を開き、顔を合わせるようにしています」と住田さん

例えば、子どもが病気になってどうしても休まなければいけないときがあります。会社では、普段からワークシェアリングにより多くの人で仕事を分担しているの、そのような場合には他のメンバーで埋められるようにし、子育てと仕事の両立をバックアップしています。

こういった取り組みを進めるためには、従業員同士の「支えあいの心」が必要ですが、職場には、互いに競い合いながら切磋琢磨するということが必要な場合もあります。そういった正反対の状況の中でも、「やさしさ」や「思いやり」を根底にして、互いに思いやりながら、会社全体として働きやすい環境をつくっていかうと、全員でがんばっています。

平田京子さん(口和町)

早朝保育、延長保育を利用していますが、三次に勤務しているの、通勤時間などを考えるともう少し時間を延長してもらいたいというのが本音です。また、土曜日の勤務もあるので、土曜日も1日保育があればと思います。

延長保育の利用者が徐々に増えているので、自分と同じような環境で子育てをしている人が増えているんですね。



出勤前の7時40分。子どもたちを保育所へ送ってきた平田さん(写真右)

働きながら子育てをしているお父さん・お母さんの声にこたえるため、市内の一部の保育所で実施しています。詳しくは、各保育所までお問い合わせください。

◎ 早朝保育・延長保育 未満児保育

みどり園保育所(口和町)

3年前から、保護者や地域の要望で早朝保育・延長保育を開始。現在、6人が早朝保育、40人が延長保育を利用しています。未満児保育(3歳未満)も以前から実施していますが、最近はその人数も増えて、現在17人が利用しています。



お話を伺った増田さん(写真右)、増原さん(写真右から4人目)塩本さん(写真右から3人目)。また、取材当日にはご家族や近所の皆さんもいらっしゃいました。

◎ 昔ながらのつながりが生活に

市役所本庁舎からほどない、西本町の西上自治会。およそ120世帯が暮らすこの自治会に、増田さんの家があります。

「しょう油や味噌がなくなれば借りに行き、家を空けるときには声をかける。長年暮らしているの、隣近所とは昔ながらの親しいお付き合いをさせてもらっています」と増田さん。

「向う三軒両隣」という言葉がぴったり当てはまるような近所づきあいが、この地域にはありました。

子育てについても、「隣の家の子どもたちは、学校から帰って家に誰もいないときなど、うちで宿題をして帰ることもあります。ときには、誰もいないからうちに来るようにと、その子の家に張り紙をしたこともありました」とのこと。「でもお互い様ですから、いつもありがたいの一言で済んでしまいま

子育て環境の充実を支える“チカラ”

地域の輪

◎ 受け継がれる地域の輪

「自分が若いころには、近所のおばあちゃんに子どもを預かってもらって、買い物などに出かけていました。その頃に親しく接してもらい、子育てだけでなくいろいろな面で支えてもらっていたことが、今のつながりになっていくのだと感じます」。増田さんの隣に住む塩本千恵子さんは、自分の過ごしてきた環境と現在の地域のつながりについて、こう振り返ります。

「自分がしてもらったことを、今地域で同じようにやっ

ているんです。子どもたちも、このような支えあいの姿を見て成長していき、地域でまた同じようにつながりを受け継いでくれると思っています」。

核家族化や少子化が進み、昔ながらの地域のつながりや助け合いの心が薄れてきていると言われる今日。そのような状況でも、この地域には、子育てをはじめ生活のあらゆる場面で地域の強いつながりを感じる事ができました。そしてそのつながりは、現在の大人たちから子ども、そして孫へと世代を超えて受け継がれていくのではないのでしょうか。



夏には流しそうめん、秋には月見団子づくりと、大人と子どもが集まって楽しい輪ができます。



Column

●コラム●

「出会い」の場をつくる

少子化の一因としては、晩婚、未婚があげられます。その背景には、結婚に魅力を感じないなど価値観の多様化もありますが、**一方では男女の出会いの機会が少ないというのも事実です。**



大自然の中で、出会いを求めて参加した男女が交流

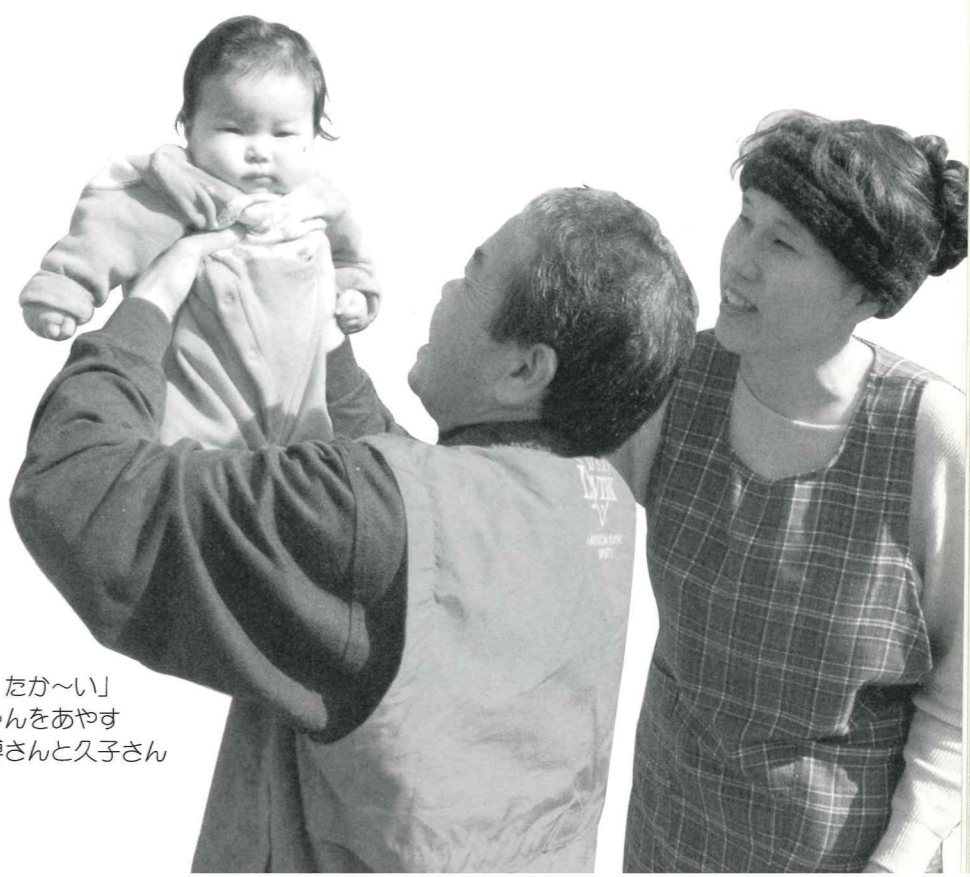
お見合いツアー

平成8年、口和町・高野町・比和町の3町は、定住対策に取り組もうと3町振興協議会（TRYアングル）を設立。過疎、高齢化、少子化という共通の悩みの中で、「お嫁さん対策に取り組もう」と、1泊2日のお見合いツアーを開始しました。

コンセプトは、「真面目でもしろうい出会いづくり」。新聞やラジコ、情報誌で参加者を募集し、農村生活にあこがれる都会の女性が参加。3町内の観光地めぐりや農作業体験などを通じて、お互いの理解を深め合いました。これまで毎年実施し、実に12組がゴールインしています。

ツアーが育んだ幸せ

高野町の藤原祐博さんは、役場職員に誘われ第1回のツアーに参加。参加当時は42歳で、20代の頃は、あつぎ会や青年連盟で男女の交流会をやっていたが、友だちがほとんど結婚していくと、女性と知り合う機会もだんだんと減っていった」と話します。



「たかい、たか〜い」
春香ちゃんをあやす
藤原祐博さんと久子さん



フォークダンスを楽しむ参加者

今後も続けてほしい

昨年ツアーには、特別ゲストとして招かれた藤原さん。「若い頃は、結婚しなくてもいいと考えることもあった。しかし、年を重ねるにつれ、1人ではつまるらないと思うことがある。あせる必要はないが、結婚をしたかと思っている人は、あきらめずにがんばってほしい」とエール。さらに今年はスタッフとして参加し、独身男性をサポートしました。

ツアーの継続を願う藤原さんは、「都会のように民間企業がツアーを企画することは期待ができない。これまで行政が主催することで信頼が加わり、女性が安心して参加できた。今年のツアーのように、参加者も企画に加わり、私たちOBもスタッフとして参加しながらも、何らかの形で行政に参画してほしい」と思いを語ってくれました。

「体験コースのアイススクリームづくりがおもしろそう」と参加した久子さん、そのコースを通じてお互いに話しやすい人と印象を持った2人は、2日間ずっと一緒に行動し、カップルとなりました。

毎週末にデートを重ね、10月にはプロポーズ。「出会ってから1カ月で決断。もつと悩むかと思っただけ、意外にも不安はありませんでした」と久さんは振り返ります。11月に結納、12月には入籍と、トントン拍子に話が進みました。

今年6月には、待望の愛娘・春香ちゃんを授かった。「年齢的に不安があったが、運良く授

2005 TRYアングル **夢探し体験** 参加者募集 **花嫁大募集!**

初秋の中央中国山地を楽しみながら、新たな出会いを見つけに、夢探し体験に参加しませんか？
庄原市(口和町・高野町・比和町)の男性がエスコートします。

とき 9月17日(土)~18日(日)

ところ 庄原市 口和町・高野町・比和町

ないよう 17日(土) 庄原市会館
18日(日) 自然の家 春香ちゃんあやす、夜更ハッピー
自然の家 春香ちゃんあやす

TEL 0824-85-2111

タウン情報誌で
広く参加者を募集



この子たちが大人になったとき、
「庄原で育ってよかった」
と思えるまちづくりを
進めていかなければなりません



8月から9月にかけて、市内7会場で開催した男女共同参画巡回講座



はありませぬ。「一人ひとりの意識を、一度に劇的に変えることは不可能です。少しずつ、しかし地道に、あらゆる機会を見て意識を高めていくことが大切」と青木さん。また、意識を改革しそれを実践するため、職場をはじめとする社会の仕組みづくりに

少子化に直面している現在、子育て支援に限らず、保育・教育環境の充実や定住対策、社会保障など、さまざまな面での取り組みが求められています。子育てだけを見ても、解決しなければならぬ課題は多くありますが、一方では、「お互いさま」と言える地域での活動や意識の変化など、さまざまな動きが出てきていることも確かです。

このような状況を大切にしながら、同時に、子育ての環境づくりを進めていきます。

「補完」と「協働」で環境の充実を
また現在は、平成18年度の「男女共同参画プラン」策定に向けて、住民の皆さんの意識調査を実施する準備を進めています。

多様化する価値観やニーズの中で、市の施策だけでなく、自分たちの取り組み、あるいは地域の力などを利用することで補い合い、支え合っていくという考え方は、これからの子育て環境の充実を目指す上で、一つの大きなヒントになるのではないのでしょうか。

市では、男女共同参画係を中心に、講座や講演会の開催、あるいは相談業務などを通じて意識啓発を進めています。

子育て支援センターやファミリーサポート事業などを利用する人の中には、「より個別のニーズに対応できるように」、「自分たちの子どもは自分たちで」などの考え方も、今回ご紹介したように自ら取り組みを始めた例もあります。

最終章 Chapter Final

変わりゆく子育ての“カタチ”



お話を伺った、子育て推進委員長の青木さん

少子化が進む現在、仕事と子育ての両立、経済的な問題、核家族化の進行など、子育て環境を取り巻く状況は大きく変化しています。多くの意見・要望に応えるため、行政では新規事業の実施や従来事業の拡充を図っていますが、厳しい財政状況や多様化する価値観などにより、全てに対応できる理想的な取り組みを実施することには自ずと限界があります。「昔ながらの地域のつながりを表す『向う三軒両隣』という言葉があります。市内には、『近所』の輪の中で子育てをサポートされている所もありますが、今後は、こういった身近な人が支えあい、助け合う『地域の力』を見

「地域の力」で支えあい



11月に開催された子育て推進委員会。子育て支援センターの利用状況をはじめ、子育て支援の取り組みに対し、委員の皆さんから意見が出されました。

直す必要があるのでは」。子育て支援のあり方を検討し、市の支援事業をサポートする子育て推進委員の青木委員長はこう話します。「地域にはそれぞれ考え方や課題があり、それに対応できるのはやはり地域の力。ただ、取り組みをその場にとどめるのではなく、活動の輪を広げていくことも重要です」。活動に参加した

性別に関わりなくその個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会の実現を目指し、全国で取り組みが進められている今日。しかしながら、家庭や地域、職場などには、依然として「子育ては女性の仕事」という社会通念が残っている部分が多く見られます。深く根付いた意識を変えていくことは、容易なことでは

くてもきつかけがない、一人で参加するのは気が引けるなど、なかなか利用できない人も多中で、活動を広く知らせて参加を呼びかけていくことは、そのような人々への支援にもつながります。さらには、子育て支援に携わる関係者についても、「交流や情報交換が必要」と青木さん。「各地域の取り組みの情報を交換することで、解決する課題もあるはずですし、同じ立場での意見を聞くことが、取り組みの幅を広げることにつながるかもしれません」。

意識と仕組みの「変革」